

E V E N T R E P O R T

夏の体験入学2017

担当教員 2017年度担当教員
総研大物理科学研究科機能分子科学専攻 准教授 藤 貴夫

2017年8月7日（月）から10日（木）までの4日間、分子科学研究所（分子研）において、第14回総合研究大学院大学（総研大）夏の体験入学が開催されました。本体験入学は、他大学の学部学生・大学院生を対象とするもので、各研究室での体験学習を通じて、特に、最先端の研究に触れることで、分子研（総研大物理科学研究科構造分子科学専攻・機能分子科学専攻）における研究環境や設備、大学院教育、研究者養成、共同利用研究などの活動を知ってもらい、分子研や総研大への理解を広げてもらうことを目的としています。

本年度は、46名の申込があり、選考の結果、23名の学生（学部学生19名、大学院修士課程学生4名）を受け入れることにしました。選考では、申し込み学生の総研大への関心の高さを重視しました。初日には、台風が接近していたのですが、学生の来所の時間帯における交通機関への影響はほとん

どなく、全員予定通り参加することができました。初日の午後から、明大寺地区でオリエンテーションを開催しました。総研大・分子研の紹介に続き、各実施グループによる体験プログラムの紹介を行いました。その後、UVSORと計算科学研究センターにおいて施設見学を行いました。8日、9日の2日間は、各グループにおける体験プログラムの実施に割り当てられました。最終日の10日には、2日間の体験プログラムの結果を個別に発表してもらいました。わたしはこれまで、7回ほどこの体験入学の発表会に参加してきましたが、今年度の発表会では、特に体験入学参加者からの質問が多く出て、非常に盛り上がっていたと思います。イベント終了後のアンケートにおいては、23人中16人が進路先として総研大を選択する可能性があるとの回答していました。その中で、実際に2名の学生が総研大を受験し、また28年度体験入学参加者の中からも3名受

験者がいました。オープンキャンパス参加者も合わせると、10名ほどになりました。過去5,6年におけるこれらの事業の参加者のうち、総研大への入学者が十数名だったことを考えると、ここ数年で、これらの事業の成果が急激に上がってきたことがわかります。

今年度も様々な方々にお手伝いをいただきました。最後に、本事業にご協力いただきました全ての先生方、関係者の皆様方にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。



総研大アジア冬の学校2017

担当教員 2017年度担当教員
総研大物理科学研究科構造分子科学専攻 准教授 古賀 信康

総研大「アジア冬の学校」が、平成29年12月15（金）分子科学研究所明大寺地区において開催されました。総研大アジア冬の学校は、物理科学研究科内の5専攻で行っている研究・教育活動をアジア諸国の大学院生及び若手研究者の育成に広く供するために平成16年度に始まりました。分子研国際インターンシッププログラムで受入れているインターンシップ生を中心に、国内他大学の留学生1名を加え、合計8名の参加がありました。「分子科学、新分野への挑戦」をテーマに、所内からは、田中清尚准教授、小林玄器特任准教授、秋山修二教授、所外からは京都大学理学研究科・林重彦教授をお招きし（分子研コロキウムとの共催）、様々な観点から分子科学の基礎・最先端の研究が紹介されました。また、インターンシップ生のフラッシュトークに始まり、インターンシップ生と総研大生（10名）によるポスター発表が行われ、活発な議論や交流が持たれ非常に盛況でした。クローリングは所長宅でバンケットが行われ、アットホームな雰囲気の中、様々な手料理が振る舞われました。本冬の学校の開催にあたり、講演して頂いた先生方、様々な裏方仕事をして頂いた皆様方、多くの方々に協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。



Program

- 9:00-9:40 Registration
- 9:40-9:45 Opening remark
- 9:45-10:25 Lecture 1
Kiyohisa TANAKA (UVSOR Synchrotron Facility)
"ARPES studies on high-Tc superconductors in UVSOR"
- 10:30-11:10 Lecture 2
Genki KOBAYASHI (Research Center of Integrative Molecular Systems)
"Study on H- Conductive Oxyhydrides for Next-Generation Battery Systems"
- 11:20-12:40 Self-appeal Flash Talk
- 13:00-14:40 Poster Session & Lunch
- 14:50-15:50 Lecture 3
Shuji AKIYAMA (Research Center of Integrative Molecular Systems)
"The frontier in cyanobacterial circadian clock system"
- 16:00-17:30 IMS Colloquium
Prof. Shigehiko HAYASHI (Kyoto Univ.)
"Theoretical Understanding and Design of Molecular Functions of Proteins"
- 17:50- Closing & Banquet